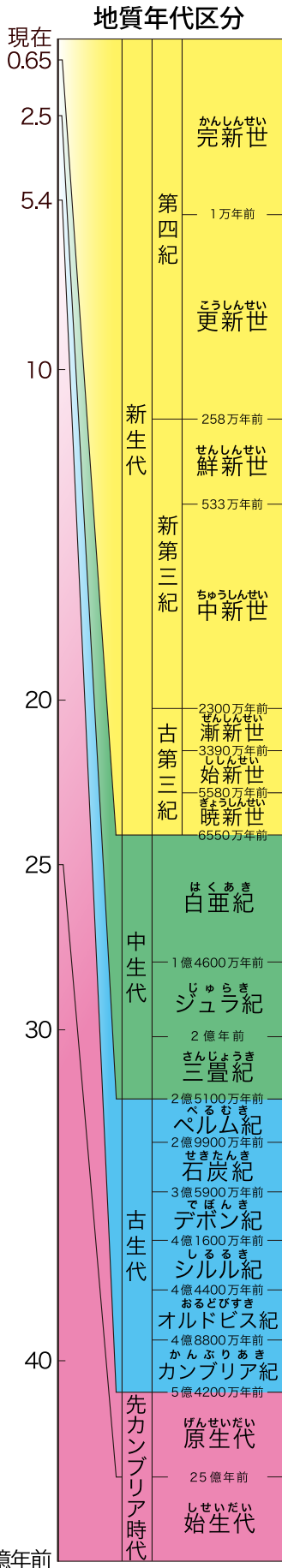


鹿児島島の地史



↑ 日本列島の時代

↑ 活発な火山活動の時代

① ② ③ ④ ⑤ ⑥

↑ 鹿児島島の土台が作られた時代

↑ 日本列島が大陸にくっついてきた時代

⑦ ⑧

鹿児島島の大地のなりたちは、大きく2つに分けることができます。ひとつは鹿児島島の基盤をつくっている地層や岩石、ジュラ紀から中新世はじめまでの沈み込みに伴う付加体*とそれをおおう堆積岩、マグマが地下で冷え固まった花こう岩。もうひとつはそれらをおおっている最近約800万年前から現在まで続く火山活動で噴出した火山岩です。

① 2011年霧島・新燃岳の噴火 (3年前)



② 桜島大正噴火 (100年前)



③ 鬼界カルデラの噴火 (約7300年前)



④ 始良カルデラの噴火 (2.9万年前)



⑤ 菱刈金鉱床の形成 (約100万年前)



⑥ 肥薩・北薩・南薩火山岩類の活動開始 (約800万年前)



⑦ 南大隅・屋久島花こう岩の貫入 (約1500万年前)



⑧ 付加体の形成 (約2億～2000万年前)



約4000万年前のプレートの沈み込みによって海洋プレート上の枕状溶岩が大陸の縁にくっついたもの。現在上下が逆転している。

*付加体: プレートの沈み込みによって、その上の地層・岩石が、プレートの前面にくっついてできる複雑な地層のこと。日本の基盤をなす地層の多くを占める。

*溶結凝灰岩: 火山噴火で放出された火山灰や軽石などが、降り積った後に自分の熱と重さでその一部が変形・圧縮されてできる凝灰岩の一種。